

## 【名古屋市重症心身障害児者施設ティンクルなごや】

### ＜医療型障害児入所施設・療養介護・短期入所（医療型）＞

#### 1 総論

- ・ 「すべての人の生命、最も弱いものの生命がひとりももれなく守られ、成長が育まれ、豊かな人生が過ごせる社会の実現に寄与する」ことを施設の「理念」とし、平成27年度開設以来、「生活支援」、「在宅支援」、「地域連携」、「地域移行支援」及び「公平な施設運営」の5点について「基本方針」を定め、第一期指定管理期間の10年間を通じ、安心、安全で思いやりのある療育環境づくりを進めてきた。
- ・ 施設では、感染症の重症化リスクの高い方が多く利用されていることに鑑み、慎重な感染対策を継続し、保護者の方々はじめ関係者の理解と協力をいただきながら、利用者の安心・安全を最優先に施設運営を行う一方、療育活動や施設行事、保護者の方々との面会といった場面において、ふれあいと交流の機会を大切と考え、段階的な緩和策の実施に工夫改善を重ねた一年であった。

#### 2 稼働実績

- ・ 長期入所（設定定員80人）については、年間平均入所者数76.1人（5年度76.2人）で、年間平均稼働率95.1%（5年度95.3%）となり、令和元年度に達成した「公的医療機関等2025プラン」の目標稼働率90%を維持した。
- ・ 短期入所（設定定員10人）については、年間平均利用者数4.3人（5年度4.1人）で、前年度からやや増加したものの、個室利用に限定した受け入れの継続や、7月期に生じた所内のコロナ感染拡大に伴う受入停止措の影響もあり、当初計画目標とした7.0人には及ばなかった。また、感染対策以外にも受入拡大に対応できる人員配置の整備や、入退所手順の見直しなどの課題も明らかとなった。
- ・ 長期、短期を合わせた施設全体の年間稼働状況は、一日平均利用者数で見ると80.4人（5年度80.3人）となり、稼働率は89.3%（5年度89.2%）であった。※総定員90人

#### 【一日平均利用者数推移】

(単位:人)

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
長期入所	74.1	76.2	76.1
短期入所	4.4	4.1	4.3
全体	78.5	80.3	80.4

### 3 職員配置

- 市が定める職員の配置基準を満たすべく、必要な人員確保を行うとともに、資格要件や経験等を踏まえた適切な人材配置と計画的な人材育成により、持続的、安定的な施設運営と療育水準の向上を図った。

【職員数一覧表】 (各年度末現在) (単位:人)

区 分	医師			看護師		生活支援員		機能訓練		薬剤・栄養 サビ管・事務等		計	
	常勤	非常勤	常勤 換算	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
令和4年度	2	10	6.0	64.5	2	24.5	2	4	2	17	11	112	27
令和5年度	2	9	6.0	68.5	4	22	2	4	2	17.5	11	114	28
令和6年度	2	10	6.1	68.5	1	22	1	3	1	16.5	12	112	25

\* 医師常勤換算は宿日直は含まない

\* 令和6年度末現在の産休・育休等4人を含む(看護師1、生活支援員2、管理栄養士1)

### 4 サービス

#### (1) 生活支援

##### ア 長期入所利用(医療型障害児入所施設、療養介護)

- 過去3年間の長期入所利用者の内訳は、下表のとおりであり、令和7年3月末時点の超・準超重症児者数は32人で長期入所者の41.6%を占め、割合はこの3年間で2.4ポイント増加した。(7:1看護体制の届出基準=30%)

【入所者の推移・内訳】 (単位:人)

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実入所者数 (3月31日現在)	74	77	77
18歳未満	9	9	8
18歳以上	65	68	69
超重症児者数	12	13	14
準超重症児者数	17	18	18
呼吸管理	23	25	26
人工呼吸器あり	13	13	14
気管切開あり (人工呼吸器なし)	10	12	12
経管栄養(胃ろう、経鼻等)	47	49	50
学校教育	9	9	9
訪問教育	6	6	6
通 学	3	3	3

- ・ 長期入所利用者が治療、検査などで、かかりつけ医その他の医療機関を外来受診した件数は、下表のとおりである。

【他院受診件数の実績】

(単位：件)

年 度	耳鼻科	眼科	内科	皮膚科	小児科	整形	外科	泌尿器	その他	合計
4	45	1	33	—	19	51	38	23	26	236
5	43	1	35	—	18	30	42	26	15	210
6	51	15	35	1	26	32	36	25	20	241

#### イ 入所調整会議

- ・ 本人の心身の状況や家族の介護実態などをふまえ、入所の必要性、緊急性を確認し、入所調整会議での審議を経て入所決定を行っている。令和6年度は1回開催(緊急入所事案につき持回りでの開催)

※ 入所調整会議：名古屋市が設置、医師及び行政関係者によって構成

【令和6年度会議開催状況】

(単位：人)

審査日	審査件数	選考者数 (承認)	令和7年3月末現在			
			入所中	退所	辞退	調整中
12月23、24日	1	1		1		
計	1	1		1		

#### ウ 措置入所

- ・ 児童相談所による措置入所については、令和6年度末現在、5名であった。
- ・ 一時保護委託による児童の受け入れは2名あり、1名は令和6年度中に退所している。(令和5年度は、1名受け入れ)

#### エ 重度化等への対応

- ・ 日々の看護やリハビリテーション及び生活支援の場面を通じ、一人ひとりの状態変化を見逃さず、二次障害や合併症の発生予防とともに、感染症の拡大防止に努めた。
- ・ 褥瘡対策委員会においては、褥瘡の予防対策について進行管理を徹底したのをはじめ、医療安全管理委員会を通じて、骨折予防の取り組みや窒息誤嚥事故の防止に向けた取り組みを進めたほか、感染対策委員会において、「院内感染対策指針及びマニュアル」に基づいた感染対策の進行管理を徹底した。(5「委員会活動」参照 ※医療安全管理委員会、感染対策委員会、褥瘡対策委員会)

【リハビリテーションの実施件数】

(延べ)

区 分	年間計
実施件数	8,388 件
単位 (1 単位 / 20 分)	9,147 単位

## オ 介護用リフト

- ・ ベッド、車いすへの移乗や入浴介助の実施にあたっては、原則、介護用リフトを使用することを徹底し、利用者の安全確保とともに職員の負荷軽減を図った。

## カ 保護者との協力

## (ア) 保護者会

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、保護者の全体会議開催は引き続き見送りとされたが、定期的な役員会議等の機会を通じ、施設運営に関する必要な情報共有や事業のあり方などに関する意見交換を実施した。

## (イ) 面会

- ・ 保護者と利用者の面会方式については、段階的に見直しを行い、11月には予約制・回数制限を撤廃、面会可能時間帯については、それまでの「13時30分～15時30分」であったものを、「10時～17時」に拡大した。また、3月には1回あたりの面会時間を30分から1時間に拡大した。(希望者へのオンライン面会は1回あたり10分程度とし、予約制で継続中)

## 【面会実施状況】

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
合計	105	98	152	161	150	157	158	390	428	415	415	399	3,028
1日平均	3.5	3.2	5.1	5.2	4.8	5.2	5.1	13.0	13.8	13.4	14.5	12.9	8.3

## キ 行事等

- ・ 感染対策との両立の観点から、病棟単位での分散方式での体験型イベントを通じ、利用者の感動体験や保護者との交流の場を提供した。

## 【全体行事】

- ・ スヌーズレン室と周辺廊下で、「ティンクルサファリ」(手作り動物園)を実施。(7～8月)
- ・ 10月には、「ティンクルのつどい」と銘打った保護者招待イベントを前年度に引き続き開催した。入れ替え制により、各病棟において利用者参加による劇などを観覧していただいたほか、1階にて作品展示、動画上映、石鹸作り体験のコーナーを設け、ご家族に楽しんで参加していただいた。  
※ 10月26日開催、参加家族45世帯(72人)
- ・ ボランティアによる訪問型イベント等としては、北文化小劇場の協力のもと、「ホスピタルクラウン」の来訪を受け、パフォーマンスの数々を病棟ごとに楽しんでいただいた。(8月27日、9月4日)
- ・ 3月には、南山大学附属小学校聖歌隊によるコンサートを1階多目的室・交流ホールにおいて、入れ替え制で開催、病棟単位ではあるものの、約5年ぶりに利用者様とご家族とが一緒に鑑賞していただく機会となり、多くの参加者から高評価を得ることができた。(3月9日)

【病棟行事】

- ・ 毎月の誕生会や季節行事(節分、ひな祭り、お花見、運動会、クリスマス等)、音楽療法などの日中活動については、感染対策に十分留意しながら取り組んだほか、施設のリフト付きワゴン車を用いた少人数単位での「ドライブ体験」の機会を設け、利用者を楽しんでいただいた。

【その他】

- ・ 行事や日中活動の様子は、保護者の皆さんにいつでもご覧いただけるよう、施設ホームページにコメントを添えて動画や画像をアップした。
- ・ 1階交流ホールを中心に、季節ごとのアレンジメントで空間を演出し、面会時のアメニティ充実を図るために工夫を凝らした。なお、7月からは企業ボランティア(明治安田生命保険相互会社)の協力を得て飾りつけを実施している。
- ・ 七夕の時期には「短冊」を、また新年には、「絵馬」を保護者の皆さんに書いていただき、面会スペースなどに飾ることを通して、ご家族で願いを一つにさせていただいた。

(5「委員会活動」参照 ※行事委員会)

ク 特別支援学校との連携

- ・ 名古屋特別支援学校と連携し、通学と訪問により学齢期の入所者の義務教育が確実に保障できる環境を確保した。(通学2人、訪問教育6人)  
※なお、別に1人は本人(保護者)意向により港特別支援学校に通学した。
- ・ 名古屋特別支援学校とは学校事業への参加や児童生徒の生活、健康管理などに関する定期的な情報交換を行った。

ケ その他

- ・ 利用者一人ひとりに対する理解を深めることを大切に、個別支援計画内容の充実を図りながら、計画に則ったケア、生活支援を行った。
- ・ 原則週3回の入浴や適時の排泄介助、汚れた衣服の随時交換等、清潔で快適な生活の維持を図った。
- ・ 各病棟では、定期的にNST(栄養サポートチーム:毎月 各病棟1回)を開催し、栄養状態や食事内容の改善に向けた取り組みを進めた。
- ・ DST(摂食嚥下サポートチーム:毎月2回)においては、利用者の嚥下状態の観察、評価を継続して行った。

(5「委員会活動」参照 ※栄養・給食委員会)

(2) 在宅支援

ア 短期入所

- ・ 利用者や保護者の安心につながる支援が提供できるよう、在宅での医療的ケアの状況や直近の健康状態、生活の様子等について、きめ細かく聴き取りを行うとともに、利用日や時間帯について可能な限り希望に沿うよう丁寧な利用調整を行っ

た。  
 ※ 感染防止のため個室での受け入れを継続

【令和6年度利用者数（短期入所）】

区 分	年間計	月当り	一日平均
延利用者数(日)	1,572	131.0	4.3
実利用者数(人)	531	44.2	〔4年度：4.4〕 〔5年度：4.1〕
超重症児(日)	224	18.6	
準超重症児(日)	330	27.5	
利用件数(件)	539	44.9	
年度末契約者数(人)	111	—	

イ 相談対応

- 施設入所(長期入所)や短期入所利用に関する保護者や関係機関からの相談に随時対応するとともに、児童相談所からの一時保護委託等の相談に対応した。

区 分	相談件数(実件数)
施設入所相談	11
短期入所利用相談	12
措置入所・一時保護委託相談	7

(3) 地域連携

ア 西部医療センターとの連携状況

- 緊急時、急変時に救急医療の対応を依頼し、協力をいただいた。
- 日直担当医師の派遣に協力をいただいた。(土曜日)
- 皮膚科医師の定期的派遣により回診を行っていただいた。(火曜時間外)
- 耳鼻科医師の随時派遣によりカンファレンス・回診を行っていただいた。

イ 北歯科保健医療センターとの連携状況

- 利用者の歯科治療の受け入れ(実人数70人、延受診日数313日)  
うち摂食嚥下受診(実人数 0人、延受診日数 0日)

ウ その他の医療機関等との連携状況

(ア) 愛知県医療療育総合センター中央病院

- 小児外科医師の定期的派遣により回診を行っていただいた。(第1金曜日)

(イ) 名古屋市立大学、愛知医科大学

- 宿日直担当医師の派遣に協力をいただいた。(平日夜間、休日)

## エ 関係機関との連携

- ・愛知県重症心身障害児者療育ネットワーク会議、同部会等の会議に参加、重症心身障害児者施設の運営に関する共通課題等について情報共有と意見交換を行い、連携の緊密化を図った。
- ・市内の医療機関をはじめ、障害者基幹相談支援センター、児童相談所、重症心身障害児者関係の障害福祉サービス事業所や相談事業所等との間で、障害児者の受け入れに係る個別調整や代替サービスの情報交換等を行う中で、関係機関・事業所相互の連携強化と顔の見える関係づくりを進めた。

## オ 支援者向け講演会の実施

- ・障害者及びその家族への重層的支援等をテーマに講演会を実施（11月6日）  
演題 「障害児者の地域生活支援と家族支援」  
講師 社会福祉法人むそう／NPO法人ふわり 理事長 戸枝陽基 氏
- ・他の重症心身障害児者施設や障害福祉サービス事業者など関係機関に周知し、講演録画をYouTube上で希望者に配信・公開した。（94か所、172人から視聴申込）

## カ 地域・在宅相談支援機能の充実

- ・令和5年度までに、障害者基幹相談支援センター16か所を個別訪問し、第一線の相談支援機関が把握している在宅の重症心身障害児者の支援ニーズやティンクルなごやに期待する機能などについて聴き取りを行うとともに、引き続き相互に顔の見える関係づくりを進めた。
- ・名古屋市社会福祉協議会が主催する「重症心身障害児者支援研修」の講師として参加したほか、地域においては、自立支援連絡協議会が主催する、「強度行動障害」をテーマとした勉強会に参加するなど、様々な機会をとらえ実務的な連携強化を進めた。

## (4) 広報・PRの実施

- ・ホームページにおいて「スタッフブログ」を掲載し随時更新を行う中で、利用者の日々の生活の様子をはじめ、日中活動や行事・イベント、業務上の改善レポートなど様々な取り組みについて、逐次情報発信を行った。
- ・ホームページに掲載した動画の編集版を「ティンクルのつどい」（行事）で上映したほか、普段来所された際にもご覧いただけるよう1階のモニターにて上映を行い、インターネット環境に不慣れな方にも喜んでいただいた。
- ・機関紙「ティンクルなごや通信」を作成し、利用者家族をはじめ、近隣学区、関係施設等に配布した。紙面を通じ、日中活動の紹介やスタッフからのメッセージ等施設の近況を報告した。（発行年2回、各1,000部）  
（5「委員会活動」参照 ※広報委員会）

## (5) 利用者の苦情、要望等の把握・対応

### ア 苦情対応・解決のための環境整備

(ア) 「苦情申立相談処理実施要領」に基づき、苦情・要望等の申し出に対応

- ・ 苦情受付窓口 相談員
- ・ 苦情解決責任者 総務部長
- ・ 第三者委員 西部医療センター長 名古屋特別支援学校校長

(イ) 「ご意見箱」の設置と回答の公開掲示

(ウ) 電話や面会来所の機会等を捉えた意見・要望の把握

イ 苦情件数 2件

- ※ インシデントを含む事故等に関するもの2件（いずれも書面申立てには至らなかったものの、実施要領の規定に準じて対応）

(6) 利用者満足度調査

ア 期間

令和6年9月13日～11月6日

イ 対象

施設入所者、短期入所利用者（いずれも利用者の保護者が回答）

ウ 内容

職員の対応、生活支援、ご家族への対応について、満足度を調査

エ 方法

施設入所者、短期入所利用者とも郵送により実施

オ 結果

【回答率】

施設入所利用者：回答率 73.7% (56 / 76 家庭)

※ 令和5年度 71.1% (54 / 76 家庭)

短期入所利用者：回答率 55.9% (62 / 111 家庭)

※ 令和5年度 42.9% (48 / 112 家庭)

【概要】

- ・ 「職員の説明の分かりやすさ」、「尋ねやすい雰囲気」など5～6項目について、医師、看護師など職種別に評価を5段階で尋ねた。
- ・ 施設入所（長期入所）利用者の保護者からの回答では、「良い」と「まあまあ良い」を合わせた肯定的な回答が、設問全体の平均で 79.0%となり、前年度からは、ほぼ横ばいという結果であった。（5年度 78.8%、4年度 83.9%）
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止への対応に関する回答では、施設の「拡大防止」についての肯定的な評価が 82.4%（5年度 88.2%、4年度 88.6%）であった一方、「個々の利用者さんの生活の様子や健康状態が伝わっているか」については、肯定的評価が 71.2%（5年度 64.0%、4年度 70.0%）という結果となり、前年度と比べ一定の改善が認められた。

- 短期入所利用者についてみると、予約手続き（インターネットによる予約システムを令和4年度導入）に関する設問では、肯定的な回答が37.5%にとどまった。（5年度53.3%、4年度54.1%）
- （予約手続きに関する）自由記載では、予約開始直後に入力しても早い順位が取れないことや、希望通りの予約日確保が以前と同様難しい実態を指摘する意見が複数みられたほか、キャンセルが出た場合に利用ができるようになるという意見も寄せられた。
- 肯定的な回答の割合は、3項目（「窓口や電話の対応」、「職員の説明のわかりやすさ」、「食事・栄養の内容」）において80%を超えた一方、「職員間での情報提供」、「利用後の本人の様子」については、前年度に引き続き5割台にとどまった。
- 自由記載では、個室対応下での滞在中の過ごし方に関して、交流や刺激の不足などを懸念する声が引き続き寄せられた。

#### カ フィードバック

- 集計結果及び自由記載意見に対する施設の回答をホームページ上に掲載するとともに、施設入所者の保護者には郵送でお届けした。（1月）

#### (7) 新型コロナウイルス感染症等への対応

- 職員及び入館者（保護者、業者等）の検温、手指消毒、マスク着用を徹底（継続）
- 他院受診等で施設外へ出られた方については、個室において7日間（4年度末までは14日間）の健康観察を実施、感染症が疑われるような体調変化がみられる方については、速やかに個室に移動していただく対応を行った。
- 同一病棟の複数の入所者に陽性が確認された場合には、当該病棟の短期入所利用の受け入れを一時的に休止する措置をとった。
- ワクチン接種については、希望される利用者を対象に実施した。

#### 【施設関係者の感染状況】

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者	1	3	0	13	1	0	0	0	0	0	0	1	19
職員	0	3	3	6	2	2	1	0	1	0	1	2	21
委託業者職員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2

#### (8) 災害への対策・対応

##### ア 訓練の計画的実施

- 「消防（防災）計画」「防災マニュアル」等に基づき、必要な訓練を実施した。
  - 総合訓練 2回実施（9月、3月）
  - 避難訓練 10回実施（夜間想定1回、風水害想定1回を含む）

- ・ 通常の避難訓練に加え、きずなネット（メール・アプリを活用した連絡網）による情報伝達訓練、防災知識の確認等、訓練の幅を広げた取り組みを実施した。

イ 地域との連携

- ・ 前年度に引き続き、地元学区の防災訓練に施設職員が参加し、緊急時を想定した地域との顔の見える関係づくりを進めるとともに、自立支援連絡協議会と連携し、施設の概要と利用者の様子を地域の方々に知っていただく機会とした。（6月）

ウ 防災委員会活動

- ・ 備蓄物資の確保、保管状況をはじめ、災害時の安全確保策や役割分担など基本的事項について繰り返し確認作業と検証・検討を行った。
- ・ 大規模災害・激甚災害時の備蓄用の飲料水(3日分)、食料、衛生材料等の消費期限を確認し、適切な準備と必要な更新を行った。
- ・ 緊急事態への実践的な対応手順を簡潔に整理した「アクションカード」を職員参加型で作成し、病棟はじめ各部署に備え付けた。前年度の「停電編」に続き、令和6年度においては「地震編」を作成した。

（5「委員会活動」参照 ※防災委員会）

(9) 事故等の予防・対応

ア 研修等の実施

- ・ 「医療安全管理指針」に基づく業務遂行の重要性と医療安全確保のための基本的な対策等について、新規採用者を対象に重点的な研修を実施した。
- ・ 医療安全管理委員会が主催し、全職員を対象とした基本研修（2回）をはじめ、介護リフト（操作）研修、ラウンド（巡視点検）、医療ガス研修、診療用放射線安全研修、AED・BLS（一次救命措置）訓練を計画的に実施した。
- ・ 前年度に引き続き、インシデントの中から1事例を各部署において選定し、発生経緯の検証と再発防止策を協議、検討した経過を部署横断的な場で報告する「インシデント事例検討会」を開催し、再発防止に向けた機運の醸成を図るとともに、再発防止策の情報共有と応用による横展開を進めた。
- ・ 前年度に作成した不審者侵入時の対応マニュアルに基づき、具体的な場面を想定した対応訓練を実施し、検証を行った。

イ マニュアルの整備

- ・ 骨折事案が複数回発生していることを踏まえ、ケアに当たるスタッフが重症心身障害児者の身体的特徴を理解し、状況に応じた適切かつ愛護的な支援が行えるよう「骨折予防の取り組み方針」を策定したほか、「窒息誤嚥事故防止マニュアル」を作成した。

ウ 事故等の報告

- ・ 事故等の発生時には、保護者への丁寧な謝罪と説明に努めるとともに、名古屋市への速やかな第一報を徹底した。
- ・ 発生経緯と状況に関する迅速な把握と、実効性ある再発防止策の検討を行ったのち遅滞なく名古屋市に「事故等報告」を行うとともに、利用者及び保護者並びに相談支援事業所など関係機関への説明を併せて行った。

- ・ 「医療事故等公表基準」に基づき、ホームページ等を通じ、原則として、市に報告を行った事案の一つひとつについて、その概要と再発防止策を逐次公表（「包括的公表」）するとともに、前年度中に報告された「インシデント」「アクシデント」の件数について集計・分類を行い、統計としてまとめたうえで公表した。（「統計的公表」）
    - ・ 名古屋市への報告事案 10件（5年度11件）
- （5「委員会活動」参照 ※医療安全管理委員会）

#### （10）虐待防止の推進等

##### ア 虐待防止

- ・ 「虐待防止ガイドライン及び発生時対応マニュアル」及び「同性介助の指針」の継続的な周知と浸透に努め、定期的な職員セルフチェックを継続実施した。また、各部署において「業務中の私語」をテーマに気づきに根差した意見交換を行うグループ討議とスーパーバイザーによる好評・研修を行い、全ての職員が、日々の言動や業務態度を虐待防止の観点から振り返る機会とした。
- （5「委員会活動」参照 ※虐待防止委員会）

##### イ 身体拘束適正化

- ・ サービス管理責任者や相談員等で構成する「身体拘束適正化・委員会」において、身体拘束適正化に関する研修及び適正化に関する事例検討を実施し、拘束に関する現状の把握と継続的な注意喚起に努めた。
- （5「委員会活動」参照 ※身体拘束適正化委員会）

##### ウ 接遇向上

- ・ 接遇向上のための試行的な取り組みとして、YouTube 動画視聴による研修を実施した。

#### （11）情報管理

- ・ 個人情報管理に関しては、市に準じて法人が定める「個人情報保護規程」、「情報の取扱いに関するマニュアル」及び「情報公開規程」に基づき適正管理に努めた。
- ・ 個人情報を含む書類の取扱いについては、セーフロック機能付きのカバンの携行や、発送時の複数チェック体制の徹底を図った。

## 5 委員会活動

部署や職種横断的なメンバーで構成する「委員会」を設置し、利用者の安心・安全の保障とサービスの向上を図り、保護者の皆様をはじめ関係各方面からの信頼に応える施設運営を目指し活動を進めた。

委員会	開催実績	設置趣旨及び主な活動実績(令和6年度)
医療安全管理	8回	<p>インシデントや医療事故の評価分析と再発防止の取り組みを通じ、医療・ケアの質の維持・向上を図り、適切な医療安全管理体制の構築と安全な医療の提供を進めるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員研修（全職員対象）の実施管理 2回</li> <li>・ 介護リフト操作研修、医療ガス研修、診療放射線安全研修の企画実施 各1回</li> <li>・ 院内巡視点検(ラウンド)の企画実施 2回</li> <li>・ 「インシデント事例検討会」の開催</li> <li>・ 骨折予防の取り組み方針、窒息誤嚥事故防止マニュアルの作成</li> <li>・ 不審者侵入時対応訓練の企画実施 1回</li> <li>・ 医療事故等公表基準に基づく情報開示の実施管理</li> </ul>
感染対策	11回	<p>感染予防、再発防止及び感染拡大防止など感染対策の徹底と、職員への組織的な教育・啓発を含め、施設における感染対策の進行管理を総括するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員研修、手洗いチェック(全職員対象)の企画実施 各2回</li> <li>・ 感染症発生時シミュレーション(ノロウイルス)の企画実施</li> <li>・ 院内巡視点検(ラウンド)の企画実施 2回</li> <li>・ 利用者の感染把握とワクチン接種状況の管理</li> </ul>
虐待防止	17回	<p>虐待防止の取組みと発生時対応の厳正実施について、マニュアルに則り組織的進行管理を行うもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体制整備チェック(1回)、職員セルフチェック(2回)の実施管理 1回</li> <li>・ 職員研修(新規採用者、全職員対象)の実施管理 各1回</li> <li>・ 同性介助の指針・マニュアルの策定</li> </ul>
身体拘束適正化	9回	<p>施設が定める「身体拘束をしないための指針」に則った適切なケアの実施状況について進行管理を行うもの</p>

委員会	開催実績	設置趣旨及び主な活動実績(令和6年度)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修(新規採用者、全職員対象)の実施管理 各1回</li> <li>・個別事例検討を通じた検証</li> </ul>
栄養・給食	11回	<p>栄養部門の運営と関連部門との連携を円滑にし、栄養管理、食事・献立管理、食事提供管理、衛生管理、サービス向上の適正化を図るもの</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事提供、衛生管理上のインシデント把握と改善策の検討</li> <li>・各病棟のNST(栄養サポートチーム)を通じた、食事提供、栄養管理の現状と課題の把握及び改善案の検討</li> <li>・栄養サポートチーム加算導入のための研修受講</li> </ul>
褥瘡対策	5回	<p>褥瘡及び合併する感染予防対策に関する事項を検討し、施設として必要な取り組みの進行管理を行うもの</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修(医療従事者対象)の実施管理 各1回</li> </ul>
防災対策	12回	<p>消防計画に基づき、消防設備の点検管理や自衛消防組織の運営、職員への教育・訓練活動等を総括するとともに、地域、近隣施設と防災上の連携を進める。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練の実施管理</li> <li>・地震発生時のアクションカード作成</li> <li>・地元学区防災訓練への参加</li> </ul>
行事	18回	<p>行事の企画・運営を総括し、利用者のアメニティ向上を図るとともに支援者及び地域社会との交流を促進し共生社会の実現に寄与する。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティンクルサファリ(施設内小イベント)の企画実施</li> <li>・ティンクルのつどい(家族交流型イベント)の企画実施</li> </ul>
広報	6回	<p>保護者をはじめ関係機関や地域の人々に向けた、効果的で訴求力のある情報発信を進める。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを活用した情報発信(スタッフブログの随時更新、動画コンテンツの充実等)の企画・実施管理</li> <li>・ティンクルなごや通信の編集・発行管理 2回</li> </ul>